

(別紙5)

# 調査報告書

## 外部評価項目構成

	項目数
<b>I. 理念に基づく運営</b>	<b>11</b>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を实践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>	<b>2</b>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>	<b>6</b>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>	<b>11</b>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b>30</b>

訪問調査日	20 年 12 月18日
調査実施の時間	開始 10 時00分 ～ 終了14時45分

訪問先事業所名 (都道府県)	グループホーム ひびき 福島県
-------------------	--------------------

評価調査員の氏名	氏名 <u>大野 恒夫</u>
	氏名 <u>熊谷 まゆみ</u>
事業所側対応者	職名 <u>管理者</u>
	氏名 <u>波多野 文男</u> ヒアリングを行った職員数 ( 1 )人

**※記入方法**

- 「取り組みの事実」欄は、ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入してください。
- 「取り組みを期待したい項目」欄は、今後、さらに工夫や改善が必要と思われる項目に○をつけてください。

**※項目番号について**

- 外部評価項目は30項目です。
- 「外部」にある項目番号が外部評価の通し番号です。
- 「自己」にある項目番号は自己評価で該当する番号です。参考にして下さい。

**※用語について**

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

[認知症対応型共同生活介護用]

# 1. 調査報告概要表

作成日 20 #####

## 【評価実施概要】

事業所番号	0772500351
法人名	医療法人社団日新会
事業所名	医療法人社団日新会 グループホームひびき
所在地	福島県喜多方市山都町字北松の前3144 (電話) 0241-30-1123
評価機関名	会津医療生活協同組合
所在地	会津若松市東千石1丁目2-13
訪問調査日	平成20年12月18日

【情報提供票より】 ( 20年 11月 1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年4月16日
ユニット数	1 ユニット
職員数	利用定員数計 9 人 8 人 常勤 7 人, 非常勤1人, 常勤換算6, 6人

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り
	1 階建ての ~ 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有 ( 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 ( 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		780 円	

### (4) 利用者の概要 ( 11月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	3	要介護2	4		
要介護3	2	要介護4			
要介護5		要支援2			
年齢	平均 83.7 歳	最低	74 歳	最高	95 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	入澤病院 安部医院
---------	-----------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

居室の掃除、共有空間の床の雑巾がけなどを利用者が行うなどそれぞれの役割を果たしながらお互いに支えあって、のんびりゆったりと過ごしている。利用者の生活歴、思いを把握し、より良く暮らせるための介護計画を作るよう努めている。職員のまとまりもよくチームワークが良い。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)
	外部評価の結果をもとに職員間で改善に向けて話し合い、利用者の思いや意向の把握など改善がはかられている。人員配置や研修参加など法人との話し合いも必要である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
	自己評価を職員間で話し合って行った。外部評価の結果をもとに話し合い、改善にむけて取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5)
	行政区長、民生委員が委員として入り、2ヶ月に1回定期的に開催されている。ホームからの報告、外部評価の結果等も報告し、意見交換を行っている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
	意見、要望、苦情等を気軽に言ってもらうように努めているが、具体的に意見、要望等は上がっていない。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
	「ひびき通信」を地域に配布し、理解を得るよう努めている。敬老会、運動会等に招待され、地域との交流をはかっている。

## 2. 調査報告書

調査員氏名 大野 恒夫 / 同行調査員氏名 熊谷 まゆみ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念を踏まえてケア目標を作っているが、その中で「利用者と地域の交わりが行えるように援助する」ことを掲げている。運営理念、ケア目標について、もっと分かりやすい言葉で表現するよう職員間で話し合っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念、ケア目標の見直しの話し合いを通じて、理念とは何か、理念に沿った実践としてのケア目標について理解を深めている。定例会議等の中で理念に沿った実践が出来ているか話し合っている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議の委員として行政区長が入るようになったことから地域の情報も入るようになった。「ひびき通信」を地域に配布し、理解を得るようにしている。敬老会、運動会等に招待され地域の人との交流をはかっている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果をもとに職員間で話し合いを行い、改善にむけて取り組み、思いや意向の把握等の改善がはかられている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政区長、民生委員が委員として入り、2ヶ月に1回定期的に開催されている。ホームからの活動報告、外部評価の結果等を報告し、意見交換を行っている。		
6	9				
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	年4回「ひびき通信」を発行し、近況などを報告している。月1回の利用料支払いに来所した際に健康状態、金銭管理等を報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・要望、苦情等を気軽に話してもらうように努めているが、具体的な意見や要望等は上がってこない。	○	利用者のホームでの暮らしを支えていくために家族の役割を家族の方に理解してもらうような働きかけをしてほしい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者のダメージを防ぐために異動や離職を抑えるように努めている。異動があった場合は、利用者とのコミュニケーションを密にはかるよう配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内グループホームで2ヶ月1回研修会を実施している。</p>	○	<p>職員が意欲を持って働くため、志気を高めるためにも外部研修の機会を確保するよう配慮してほしい。</p>
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>市のグループホーム連絡会に参加し、他のグループホームとの情報交換や交流をはかっている。</p>		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)</b>					
12	26	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)</p>			
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者の得意なことをホームの暮らしの中で発揮してもらうようにしている。利用者から料理の仕方や伝統行事のことなどを教えてもらっている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴や思いを把握するために生活史ノート、センター方式の様式を活用している。利用者との関わりの中で掴んだ気づき等は介護記録、申し送りノートに記録し共有化をはかっている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の希望を聞き、サービス担当者会議で職員の意見を出し合い介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回のモニタリングをもとにサービス担当者会議を行い、本人、家族と相談しながら、定期的に見直しを行っている。状態変化があった場合は随時見直しをしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)			

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に、かかりつけ医の希望を聞き、特に希望がない場合は協力医療機関としている。受診は職員が同行し適切に受診支援を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	日常的に医療行為が必要になった場合等は、事業所として対応できないこと等を家族に説明している。	○	どうしたら重度化や終末期の対応が出来るのかという視点で職員間の話し合いを行うとともに、利用者の重度化や終末期ケア、看取りをどうするか法人としての方針を作るよう検討してほしい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレ誘導をさりげなく行うなど利用者のプライバシーや誇りを損ねないように注意している。記録物など個人情報も適切に保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員配置の関係等により入浴時間が限定されているが、利用者一人ひとりのペースを尊重するように対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、盛り付け、後片付け等を利用者と一緒に行い、職員と利用者は会話しながら楽しく食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日中時間帯のみの1日おきの入浴体制となっている。	○	法人として、利用者一人ひとりの希望やタイミングに合せた入浴が可能になるよう人員増などを検討してほしい。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	掃除、食事の準備、後片付け、草むしり、花の水遣りなど利用者の生活歴や力を活かし、ホームの暮らしの中で役割が果たせるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	計画的なホーム外活動、散歩や買い物など日常的な外出の機会を作っている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者一人ひとりの見守りに努め、日中は鍵をかけていない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署の指導を受けて、避難訓練を行っている。災害時の食料、飲料水、物品等の準備はされていない。	○	災害時の食料、飲料水、物品等の順簿をしておいてほしい。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量は個別に把握されている。水分量については一人ひとりの状態に応じた支援が行われている。栄養士による献立のチェックも行われている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には観葉植物、花、人形などが飾られ、日ざし、音も適切に管理されており、居心地の良い空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や使い慣れた小物等が持ち込まれているが全体的にさっぱりした居室となっている。	○	引き続き家族の協力を得るよう働きかけてほしい。

※  は、重点項目。

3 評価結果に対する事業所の意見

グループホーム ひびき

記入担当者名 管理者 波多野 文男

評価結果に対する事業所の意見

なし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目No.を記入してから内容を記入してください。